

平成22年9月1日

【愛知県自閉症協会】

22年度発行のメンター通信は日本財団助成のもと進めてまいります。昨年度までの通信内容に加え、実際活動しているメンターからのコメント、各事業報告も随時加えていく予定です。今まで以上に充実した内容をお届けしたいと思います。

【ご挨拶】

親が変わる 親が変える



「当事者かく語りき」

この十年余りの、発達障害を取り巻く大きな環境変化のひとつとして、障害者本人や親などの当事者が語り始めたことが挙げられます。これにより、あまり知られていなかった障害特性や家族の苦悩、支援のしかたなどを共有できるようになり、子どもたちを支える親や支援者に大きな影響をもたらしました。

「もっと多くの当事者たくさん語りき」

さらに現在は、このように変わりつつあるのではないかと思います。愛知県で2005年度から始めたメンター事業により、多くの「語る(母)親」「行動する(母)親」のパワーが生まれ、親が親に相談する、親が親を支える、という輪が拡大しつつあります。メンター事業を構成する「サテライト事業」「サポートブック研修」「疑似体験(キャラバン隊)」「ピア・カウンセリング」それぞれに大きな成果を得て、活動の場が行政・園・学校・地域などにも広がっています。振り返ってみますと、これは劇的と表現することのできる変化であり、誇ることのできるすばらしいことだと確信しています。

活動に参加いただいているメンターのみなさん、愛知県並びにあいち発達障害者支援センター、名古屋市発達障害者支援センター、ご指導いただいている先生方、そして愛知県自閉症協会のスタッフ、メンター事業を支えていただいているすべてのみなさんに深く感謝を申し上げます。「親が変わり そして 親が変える」。この活動を愛知県から発信し全国につなげ、そして国の施策につなげる。そのために一歩一歩進めていきたいと思っています。

愛知県自閉症協会 会長 鈴木 寛

①メンター活動報告(4~6月)

5月30日	保育士連続研修における保護者からの講義・疑似体験 保護者から講義 疑似体験	1名 2名
6月8日 【派遣】	サポートブック研修	1名
6月14日 【派遣】	行政窓口研修 障害特性講義 グループワークファシリテーター	1名 7名
6月21日 【派遣】	行政窓口研修 障害特性講義 グループワークファシリテーター	1名 6名
6月27日	保育士連続研修におけるサポートブック研修 サポートブック研修 グループワークファシリテーター	1名 7名

②メンター活動報告書の集計(4～6月)

7名の方から合計25件の報告をいただきました。

つぼみの会で受けた電話相談、つぼみ主催の茶話会などの他にメンターが個々に受けた相談も該当します。以下に結果をご報告いたします。

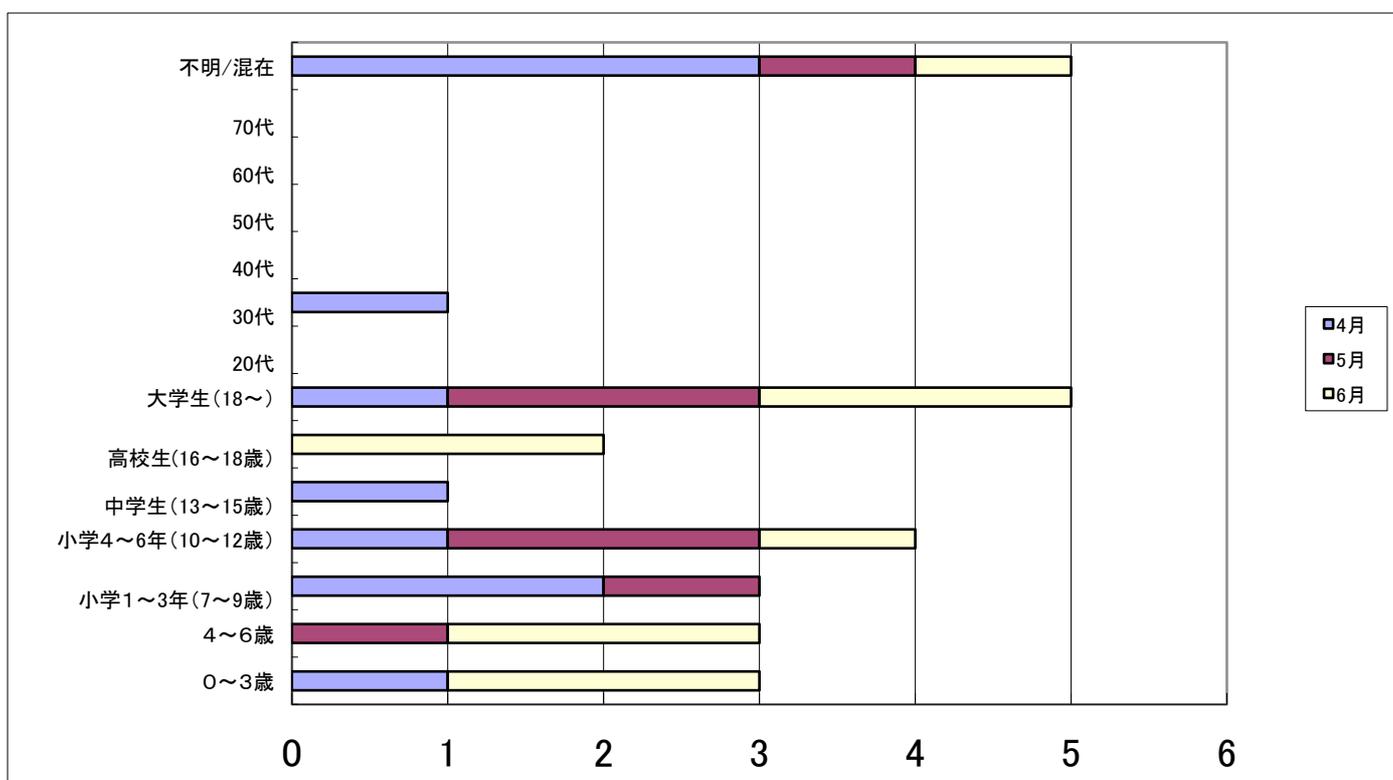
報告数は一つの行事に複数のメンターからのものもありますので、相談件数が詳細数とかならずしも一致しません。ご了承ください。

(1) 相談件数と性別・知的・手帳の推移

* 未記入もあるため合計は一致しません

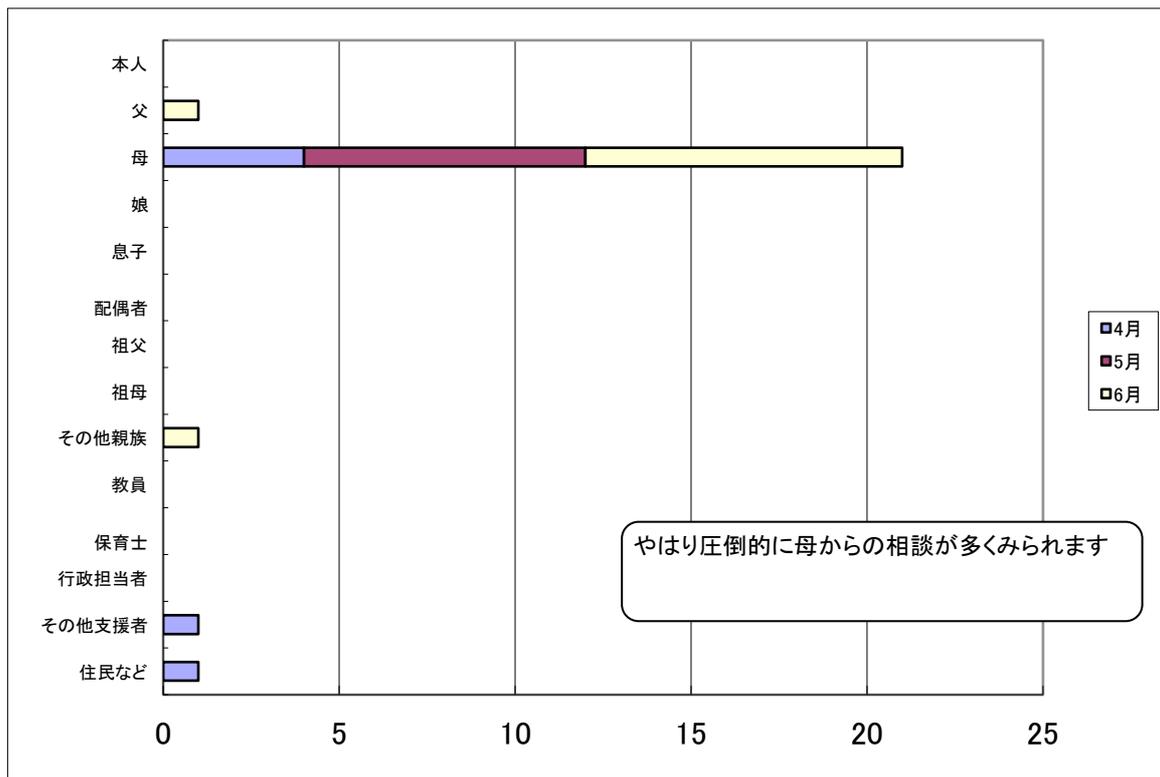
	相談件数	相談対象者		知的障害		療育手帳	
		男	女	あり	なし	あり	なし
4月	6	5	2	2	2		2
5月	8	6	1	1	4	1	4
6月	11	7	2	3	8	3	8

(2) 相談対象者年齢



(4) 相談者と

相談対象者との関係



⑤家族支援プログラムサテライト(豊橋会場)報告

平成22年7月7日～8日の二日間、豊橋市こども発達センターにおいて**発達障害児親子支援プログラム・サテライト事業「三河地区」**が開催されました。昨年度までは家族支援プログラムとして愛知県自閉症協会が行なっておりましたが、今年度からはあいち発達障害者支援センターの事業として開催されます。ここで、当事業の報告をまとめてみます。

(1)プログラムについて

- ①サポートブック研修 …当会がすすめているサポートブック作成についてのレクチャーをいたします。
- ②ピア・カウンセリング …同じ親として、同じ立場として話を聞き、親に寄り添うことを目的としています。この事業においてはグループ形式で複数のスタッフが担当します。
- ③発達障害理解のための講義、疑似体験
…外から理解されにくい発達障害の特性について説明。見え方、感じ方を体験していくことにより、子どもの世界の理解を目的としています。

*** これらすべてのプログラムをペアレントメンターが担当しています。**

*** また、当事業参加者には希望により託児を行なっております。**

(2)プログラム内容

【一日目】

9:40	10:00	12:00	13:00	15:00
受付	オリエンテーション	サポートブック研修	休憩	ピア・カウンセリング

【二日目】

9:40	10:00	12:00	13:00	15:00
受付	講義、疑似体験	休憩	ピア・カウンセリング	

(3)参加者数

対象児は2歳9ヶ月から6歳1ヶ月の20名
ペアレントメンターは13名でそれぞれ担当いたしました。



(4)各担当者からのねらい・コメント

ここでは、各担当から今回のサテライト事業についてのねらい、感想、コメントを寄せてもらいました

まず驚かされた事は、参加者一人ひとりの熱心さが長けていらっしやった事です。私の顔を見ながら、一生懸命話に耳を傾けメモを取っていらっしやる方ばかりでした。実際にサポートブックを作成していただく時間も積極的に取り組み、筆が止まることなく、各項目を埋めていらっしやいました。

終わった後、数人の方に感想を發表していただきました。サポートブックの必要性は感じていましたが、作り方がわからなかったので良い機会でしたとのご意見と、父親の立場から、作成することによって子どもの事で分からない部分が多いことに気づかされましたとのご意見をいただきました。

支援プログラムに参加される方は、少しでも今の状況を良くしていこうと向上心を持っていらっしやる方ばかりです。そういった事をふまえ、これからは、研修の内容にも前向きになれるような事柄を例に出したり、明るい内容のお話を織り交ぜていかなければと考えさせられました。

【サポートブック研修担当 浅野 雪香】

参加者からのアンケートでは、「すぐに作って活用してみたい」「いざ書こうと思うと、案外子どものことを知らないと気づいた」「色々な体験談、見本など、とても参考になってイメージがわいた」という評価をいただきました

家族支援プログラムでお話をさせて頂くのは今年で3回目になります。今回のサテライト会場は4月に開設したばかりの豊橋市子ども発達センター「ほいっぷ」で、広くて開放的な建物でした。

今年のご夫婦で参加されている方達が数組いらっちゃって、時代の流れ(?)を感じました。夫婦で取り組めるのはとてもいい事だと思うので、ご夫婦での参加が今後も増えるといいなあと思います。更に、今回は父親のペアレントメンターも参加していたので、父親同士で話すことが出来ていました。就学前の時期に同じ立場の父親同士で話す機会はなかなかないと思うので、いい時間になったのではないかと思います。

「障害特性」の講義では毎回参加者のみなさんに自閉症疑似体験をしていただいておりますが、「目からウロコだった」とか「息子の不思議な行動の理由が少しわかった」などの感想を頂きました。特性について考えるきっかけになったようで良かったです。

【講義、疑似体験担当 荻野ます美】

参加者アンケートでは「とてもわかりやすく、イメージがつかみやすかった」「これから何をしていけばいいのかが見えた気がする」「体感することで、本人たちの辛さがよくわかった」など、疑似体験をとおして子どもの理解ができたという声が多く見られました。

(5)ピア・カウンセリング報告

4グループに分けて行いました。グループや担当メンターもシャッフルし、色々な意見が交わされました。二日目には、今まで母中心だったピア・カウンセリングに父親メンターが初参加し、父親同士話が弾みました。

【相談内容の推移】・・・メンター報告書より

両日ともに多くみられたのは「行動」「こだわり」「ことば」という本人の特性、状態に関することでした。また、「きょうだい」「園対応」「就学」といった対応・対策に関することについても両日ともにみられました。一方、一日目に多く見られたのは「診断」「告知」・・・診断間もない方に比較的多く見られる内容があり、二日目には具体的には「将来」「育児の悩み」などになってきました。

参加者からは、「同じ悩みを持った人がたくさん居て、自分たちだけじゃないんだと分かった」「先輩の話を聞いたのがよかった」など、仲間がもてた事に喜びの声が多く見られました。

(6)全体からの感想として

参加者のみなさまから「とても勉強になったので、今後もこのような会を開いて欲しい」「参考になるところがたくさんあった」「もっと多くの場所で多くの機会で開催されることを期待しています」といい感想をいただきました。

*** 次回サテライト事業は平成22年10月5日(火)6日(水)に北名古屋市で開催されます。**



⑥今後のお知らせ

1. 平成22年10月2日～3日にあいち発達障害者支援センター主催(名古屋市発達障害者支援センター共催)でベーシック研修が開催されます。現在、発達障害者団体(NPO法人 アスペ・エルデの会、あいちLD親の会かたつむり、NPO法人 えじそんくらぶ なごや親の会、愛知県自閉症協会)からの推薦者を対象に募集しています。今後新規のペアレントメンターがさらなる活躍ができるように期待しています。
2. 愛知県自閉症協会の平成23年2月の研修は、現在県下ペアレントメンターに募集中です。さらに新しい内容での研修でスキルアップを図りたいと思います。なお、平成23年2月27日は一般公開で行います。メンター通信7号にてお知らせする予定です。
3. 7～9月の活動報告書提出の締め切りについては、10月13日です。期日までにご連絡を御願ひ致します。

⑦ペアレントメンター活動報告

「メンター活動」＝「相談事業」と思われていることが多いようです。実際のメンターは相談業務のほか、様々な場面で色々な活動をしています。今年度は実際活動しているメンターにどんな活動をしているのかをご報告していきたいと思ひます

皆さんこんにちは。メンターの安井貴子です。

私は2008年の秋にベーシック研修を受講し、その後フォローアップ研修・サポートブックリーダー養成研修・応用研修を受講させていただきました。最初は「メンターって何？」というほどメンターについて無知な私でしたが、今ではいろいろな研修に参加させていただいています。

この4月～6月では、保育士・幼稚園教諭連続講座の中で「親の気持ち」について話をさせていただき、愛知県下の行政窓口職員の方々に対する研修の中ではファシリテーターとして参加もしました。また、サポートブック研修では当日の講師予定のスタッフのお子さんが発熱のため急遽前日にピンチヒッターとして決まり、研修先に走ったこともありましたが…。そして、今回の私にとって大きな大きな仕事が、7月に行われた鳥取県でのペアレントメンター養成事業のベーシック研修にメンターとして参加させていただいたことでした。さすがに日帰りは無理な距離でしたので、1泊2日の旅となりましたが、この2日間は2人の子供たちをみてくれた家族と、こうした機会を与えて下さった責任者の加藤さんに感謝の気持ちでいっぱいです。

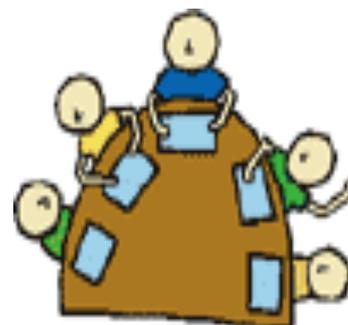
鳥取県での研修では、愛知県での活動についてのこと、リソースブックの活用方法などをお話しさせていただきましたが、休憩の時間には「愛知県では〇〇はどうしているの？」など積極的に聞いて下さる方がたくさんいました。

他県の方々と接する機会は今もなかなか無いので、とても刺激的で参加者の皆さんの熱心さに驚きました。また、もう一度ベーシック研修に参加させていただいたことで、自分自身を振り返るよききっかけにもなりました。

この秋でメンターとしての活動を始めて2年になりますが、困ったこと・迷うことなどたくさんあります。でも、そのたびに他のメンターの方たちに相談・助けてもらいながら活動を続けることができている。一人だけではなく、たくさんの仲間がいることが大きな安心にもなっているのだと思ひます。

これからも、メンターとして活動するために、一人で抱え込まず・力を抜いてがんばっていきたく思ひます。

愛知県自閉症協会 安井 貴子



「今回のゲストコメンテーター」

ペアレントメンターの皆さん こんにちは。

早いもので、ペアレントメンター養成講座(ベーシックコース)から2年近くになるんですね。メンターの皆さんはもう何件も相談を受けてこられたことと思いますが、相談にのるって思ったより大変ではありませんか? 「受け取り方が違ってたかも」「ああ言えば良かった」「こんな情報もあった」と後から反省することが多くて落ち込むことはありませんか?

私は、相談にのることは相手にエネルギーを分けてあげることなんじゃないか、と思っています。こちらが一杯一杯の時の相談は上手くいかないことが多いです。だとしたら、こちらはいつもエネルギーを補充しておく必要がありますよね。

私の職場「りんくす名古屋」はみんなよくしゃべります。今受けた電話や面接について、企画中の研修のことなど様々なことについて、相談したり愚痴を言ったり、ちょっと(かなり?)うるさいくらいです。時には言い合いになって張り詰めた雰囲気も漂うこともあります。でもそうした中で相談の技術は上がっていくし、なによりエネルギーも補充されていると感じます。メンターの皆さんも是非そういう場を持ってください。「毎日の生活を楽しめること」これが良い相談者の土台ではないでしょうか?

まだまだ暑い日が続くとの予報です。暑さに負けないで「暑さを楽しむ」ことを考えましょう。

名古屋市発達障害者支援センター りんくす名古屋 榎並恭子

吉川先生が中日新聞に紹介されました!

つなごう 医療 26

中部の最前線

発達障害児と親の心をケア

診察室でお母さんが心配そうに訴えた。小学校に入學したばかりのアスペルガー症候群の息子が、ほかの児童



をしかる担任教師の声におびえ、家でも不安定になるといつ。「恐怖が鮮明によみがえってしまっただよ

ね」。ひげを蓄えた吉川徹さんは静かに受け止めつつ、腕を組んだ。学校に伝えて、対応を求めるべきか。しばらく様子を見るか。「関係がこじれても大変だし、じわじわと働き掛けていきましようか」

児童精神科医として、今までに千人以上の発達障害の子を診てきた。その経験から、学校とのかかわり方、福祉サービスの利用の仕方などをアドバイスする。進路の相談をされることもある。子どもの治療だけで

名古屋大付属病院 (名古屋市昭和区)

親と子どもの心療科医師 **吉川 徹さん** (37)



ソフトで穏やかに患者の話を受け止める吉川徹さん。名古屋大付属病院の発達障害児科の医師。

療育の「作戦参謀」に

なく、親の心のケアにも努めるのが「親と子どもの心療科」。親の悩みは子育て全般に及ぶため、「療育の作戦

参謀を自任している。筋で考えて行動しているのか、何が好きで何をするのか、すこく興味

「物の見方や感じ方が全然違つ。彼らがどう感じるか、どんな道に感じたのか、どんな道に引き換え、発達障害の医療のニーズは高まる一方。名大病院でも診察は、多い子でも一カ月に一度、一回十五分が精いっぱいだ。一人一人、症状や生活上の問題が違う発達障害の患者・家族に、必要な支援はまだまだできていない。」

始めた。名古屋大が日本の児童精神科の先駆けであることを知り、志望。発達障害の世界に魅せられた。「物の見方や感じ方が全然違つ。彼らがどう感じるか、どんな道に感じたのか、どんな道に引き換え、発達障害の医療のニーズは高まる一方。名大病院でも診察は、多い子でも一カ月に一度、一回十五分が精いっぱいだ。一人一人、症状や生活上の問題が違う発達障害の患者・家族に、必要な支援はまだまだできていない。」

(野村由美子)



第5回集計をふまえて(吉川 徹先生より)

メンターの皆様、日々の活動お疲れ様です。新聞記事の写真をみて、あらためてダイエットを決意した吉川です。少し特色のある活動をしている医師を取り上げるコーナーらしいのですが、自分がなぜ取材をうけるのかよくわからず、ペアレントメンター活動に関わっていなかったら、話題がなくて困ってしまうところでした。

さて今年になって全国でのメンターの活動は新しいフェーズに入ってきたように思います。厚生労働省の方針をうけ、いよいよ全国でメンター活動が展開されることになっていきそうです。けれど親による親の支援(parent to parent)の支援はこれまでも全国各地で自然発生的に行われてきました。なぜここに来て、それを施策として実施していかなければならないのか、少し考えてみないといけないと思っています。

一定のプログラムに沿ってペアレントメンターを養成することの最大の目的は、関わる人全てにとってのリスクの軽減です。親と親との出会いは、常に幸福な結末に終わるとは限りません。一方から一方への、高度の依存、抱え込み、燃え尽き、価値観の共有の難しさ、特定の技法、治療などへの強引な勧誘など、想定される「事故」は少なくありません。また少しでもメンターの活動の質を高め、お互いにとってのリスクの減らすことを考えた場合には継続的な研修、事例検討などによるサポート、抱え込みの事例を早期に発見して共倒れを防ぐ仕組みなどが必要です。

またほとんどがボランティアとして支援に関わることになるメンターの方たちへの最低限の経済的援助(電話代、交通費、研修費用、会議費、託児などの費用)も考えていかなければなりません。安全に継続して活動を続けて行くには、他の親、専門家、行政からの継続的なサポートが、必須のものとなってきます。

こうした意味で、地域の行政や専門家と協力しながら、研修から活動のサポートに至るペアレントメンターの仕組み作りをしていくことがあらためて求められるのだと思います。しかし一方でメンターのシステムが専門家と行政による親の活動の管理になってしまうことは、望ましいことではないと個人的には考えています。編集後記で加藤さんが発達障害関係職員研修について触れられていますが、他の地域に向けたメンター活動の広報、研修などを自分が担当するのが本当によいことなのか、少し迷いながらお引き受けしました。またメンターの役割が専門家のサービスを低コストで肩代わりするものになってしまうことも、避けなければなりません。だからこそ親ならではの役割を尊重した活動が望ましいのだと思います。その時、あらためてペアレントメンターは「何でないのか」が問われねばならないのでしょう。

当たり前のことですが、今後、愛知県でメンターの方々が、更に安心して、継続して活動していくためのサポートシステムを作っていく中で、ぜひ親御さん達に主役でありつづけて欲しいと考えています。今年度はいよいよ自閉症協会の枠を越えたメンターの養成がはじまります。幅広くゆるやかに連携しながら、メンターの活動が続けてゆけるとよいですね。